

そらひときんのすむところ

おはなしとえ

あまの ひろみ  
天野 弘海

[てんちゃん、あの<sup>くま</sup>雲はなにに見える?]

[うさぎ!]



[じゃあ、あっち?]

[うーん、ワニかな!]

[うふふ、てんちゃん<sup>きょう</sup>今日は元<sup>げんき</sup>気<sup>おっけー</sup>O.K.わ!]

ボクのおかあさんはよくこんなことを言うんだよ  
「また、そろひとさんたちの<sup>くも</sup>雲コンテストが  
<sup>はじ</sup>始まったみたいよ。」



そんなときにお空を見ると、  
<sup>いろい</sup>色々な<sup>くも</sup>雲がもこもこふわふわ<sup>う</sup>浮いているんだ

おかあさんが言うには、  
お空そらにいる”そらひと”さんたちが、  
風かぜをあやっっているんなくも雲をつくっているんだって



「どんなくも雲のところにこそらひとさんがいるの？」

「ええ、りっぱなそらひとさんなら、  
<sup>なないろ</sup>七色のわをつく<sup>つく</sup>こともできるのよ。」



<sup>きょう</sup>今日はきっと、  
きれいなわがをつくった<sup>ゆっしょう</sup>  
あのそらひとさんが優勝<sup>優勝</sup>だよね。

みんなは、<sup>しろ</sup>日や<sup>はいいろ</sup>夕色だけじゃなく  
<sup>いろいろ</sup>色々な<sup>くも</sup>雲を見たことがある？



ピンク色の<sup>くも</sup>雲

オレンジ色の  
くも雲



きんいろ  
金の色の  
くも雲

お日様が昇るころやお日様が沈むころ



そらひとさんたちが、お日様の光とお空の色を  
じょうずに使って色くらべをしてるんだって。



かたち  
形<sub>ニ</sub>だけじゃなくて、色<sub>いろ</sub>くらべもするなんて、  
芸<sub>げい</sub>術<sub>じゆつ</sub>家<sub>か</sub>みたいなそらひとさんもいるんだね。



ボクは、ほとんどいつも  
”フレーム<sub>ニ</sub>っきの空<sub>そら</sub>”しか<sub>み</sub>見<sub>み</sub>られないから・・・  
ちょうどいいんだ<sub>ニ</sub>けどね。

でも、たまーにお空<sup>そら</sup>の上<sup>うえ</sup>で雲<sup>くも</sup>をみることがある。  
とってもとってもふしぎなんだ。

下<sup>した</sup>がまったいらな雲<sup>くも</sup>があったり、  
おふとんみ<sup>み</sup>たいにふわふわしていて  
どこまでも<sup>が</sup>駆けつけていけそうだったり。  
いろんな雲<sup>くも</sup>があるんだ。

くも<sup>くも</sup>でできたお空<sup>そら</sup>のまちみ<sup>み</sup>たいだったよ。

お<sup>そら</sup>空<sup>エ</sup>のまちでのおさんぽ  
そらひとさんたちにあえるかなって  
ドキドキするんだけど…  
そらひとさんにはあったことない

そんな<sup>ひ</sup>日にね、  
「そらひとさんにあえそうだった」って<sup>い</sup>言<sup>う</sup>と  
おがあさんはおこって  
カミナリをおとしそうになる  
そして、ちょっと<sup>かな</sup>悲<sup>し</sup>そうな<sup>かお</sup>顔<sup>は</sup>になるんだ

だからお<sup>そら</sup>空<sup>エ</sup>のまちのさんぽはひみつた  
めったにないけどね

カミナリって言<sup>い</sup>えば…

ボクはカミナリがきらいなんだ。だってこわいでしょ



おがあさんが言<sup>い</sup>うには、カミナリ<sup>ぐも</sup>雲も

お空<sup>そら</sup>が暗<sup>くら</sup>くなるくらい雲<sup>くも</sup>を集<sup>あつ</sup>めてしま

あばねんぼうのそらひとさんのせいなんだって

どんどん、<sup>くも</sup>雲<sup>あつ</sup>が<sup>あつ</sup>厚<sup>く</sup>くなって、  
まるで<sup>こわ</sup>怖い<sup>かい</sup>怪物<sup>かいじゅう</sup>が<sup>で</sup>出てくる<sup>くも</sup>雲<sup>み</sup>みたいになって、  
ピカッ　　ずどどどどーん



こんなときはたいてい、<sup>おおあめ</sup>大雨もやってくる  
<sup>あめ</sup>雨<sup>ひ</sup>の日はボクもちょっとげんきがなくなっちゃう

ど<sup>ん</sup>な<sup>に</sup>大<sup>お</sup>雨<sup>あ</sup>でもち<sup>や</sup>んと晴<sup>は</sup>れる

お<sup>か</sup>あ<sup>さ</sup>んはあ<sup>る</sup>雨<sup>あ</sup>上<sup>あ</sup>がりにこ<sup>ん</sup>な<sup>こ</sup>とも言<sup>い</sup>ったよ



「天<sup>てん</sup>のはしごでお<sup>り</sup>てくるそ<sup>ら</sup>ひと<sup>さ</sup>んにあ<sup>え</sup>るかも」

くも 雲 から ひかり 光 が ぱーって おりて くる こと が ある でしょ  
あの ひかり 光 の はしご を つがって  
そら ひと さん たち が そら 空 から おりて くる こと も ある んだ って



でも、そんなときは  
なぜだかおかあさんがぼくをきゅってだきしめるんだ

ある日<sup>ひ</sup>  
ボクは大きな大きな虫エのかがった<sup>おお おお にじ</sup>雲<sup>くも</sup>を見た<sup>み</sup>

天<sup>てん</sup>のはしごよりずっとずっと<sup>ちが</sup>近くに<sup>み</sup>見えた<sup>え</sup>  
とっても<sup>きれいな</sup>魔法<sup>まほう</sup>

なぜだ<sup>に</sup>がボクはそんな<sup>にじ</sup>虫エのそばに立っていた<sup>た</sup>



『虫エいじをくぐっておいで』  
そんなこえ声きこが聞きこえたんだ

『こっちへき来てはダメ』  
そんなこえ声きこも聞きこえた

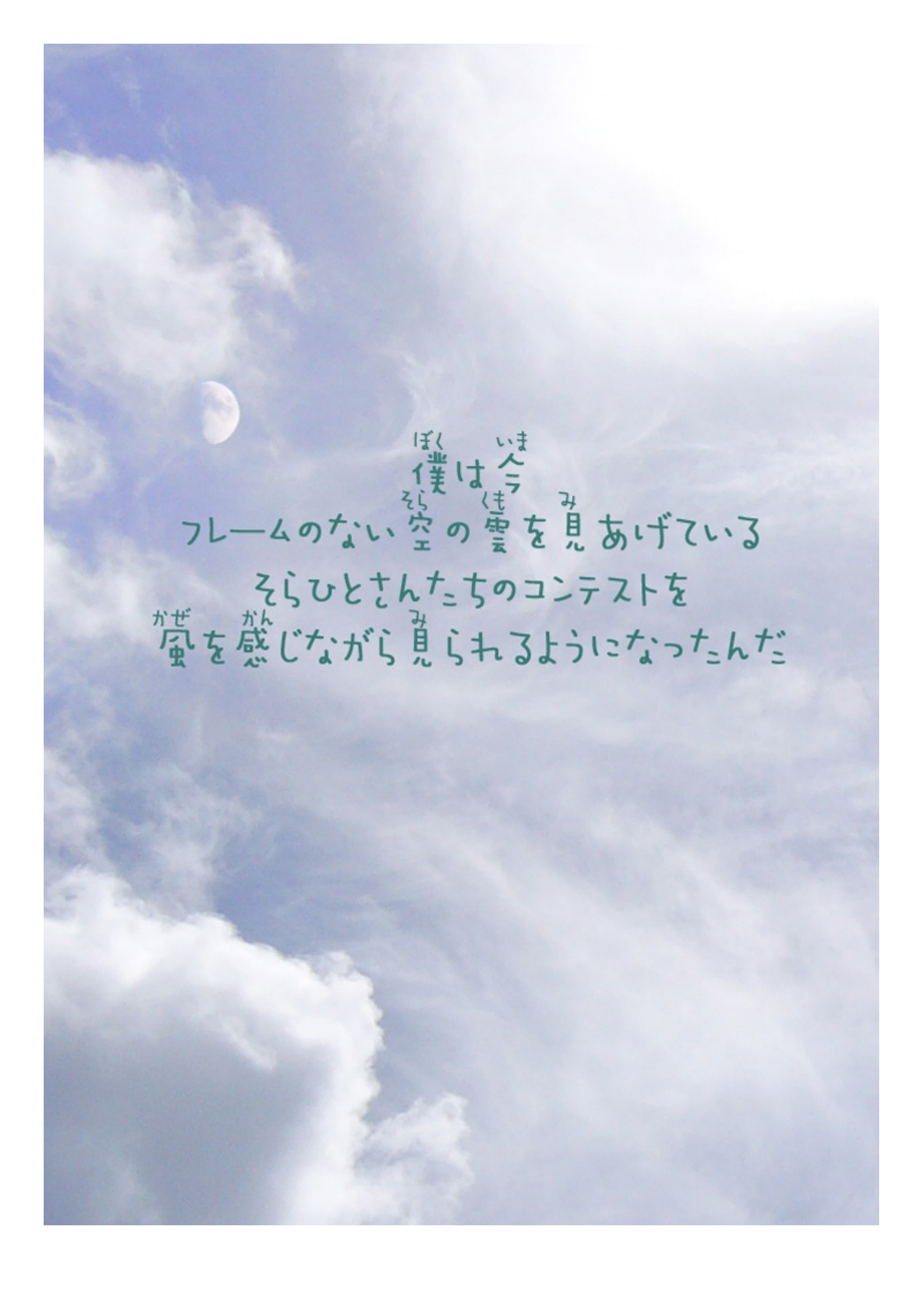
ほんとうにくぐっていけそうだったから、  
ボクはなぜがはし走はっていたよ

「もうすこ少しで、くぐれるぞ!」  
そうおも思おもったとき

「行ってはダメ！」



ボクはおかあさんにだきしめられていた。



ぼくはいま  
僕は今  
フレームのない空の雲を見あげている  
そらひとさんたちのコンテストを  
がぜを感じながら見られるようになったんだ

そらひとさんといつかあうことがあるのかな

そらひとさんのすむところ

あの<sup>おおぞら</sup>大空のどこかで

おしまい